

38号の刊行にあたって

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/47109

金沢大学考古学紀要

第 38 号

- 佐々木 達夫・佐々木花江
オマーン湾岸の港町・ディバ海岸町跡の発掘—2008～2016—..... 1-46
- 野上 建紀 五島列島福江島の田ノ江窯跡に関する測量調査ノート47-58
- 櫻井 秀雄 古墳時代の洞窟葬所、鳥羽山洞窟59-73
- 野村 将之 再興九谷松山窯の窯詰め技法について75-91
- V. S. ミナシャンツ (大谷 育恵 (訳))
タシケント州とサマルカンド州で発見された
ウズベキスタン国立歴史博物館収蔵中国鏡.....93-102
- 多々良 穰 東北地方の遺跡公園におけるボランティア活動の意義と役割 103-116

2017

金沢大学人文学類考古学研究室

ARCHAEOLOGICAL BULLETIN KANAZAWA UNIVERSITY

Vol. 38

CONTENTS

Tasuo SASAKI, Hanae SASAKI

Excavations of Dibba Coast Town Site: 2008-2016 Seasons 1-46

Takenori NOGAMI

The Report on Survey of Tanoe Kiln Site in Fukue Island in the Goto Islands..... 47-58

Hideo SAKURAI

Tobayama Cave, the Funeral Cave during the Kofun Period 59-73

Masayuki NOMURA

The Firing Technique of the Matsuyama Kiln, the Rivival *Kutani* Ware Kiln 75-91

MINASYANTS Vazgen Sosovich (Ikue OTANI trans.)

Chinese Mirrors Found on Tashkent and Samarkand Region:

The Collection of the State Museum of the History of Uzbekistan 93-102

Yutaka TATARA

The Significance and Part of Activities of Volunteers

at the Parks of Remains in the Tohoku District103-116

2017

Department of Archaeology, School of Humanities,
Kanazawa University

38号の刊行にあたって

足立 拓朗

(金沢大学歴史言語文化学系 (人文学類考古学専門分野・特別プログラム：考古学))

2014年度に36号を40周年記念号として刊行し、昨年度は37号を佐々木達夫先生古稀記念号として刊行した。2013年度は高濱秀先生の退官記念論集(六一書房)を刊行していたので、今年度は久しぶりに通常の紀要だけを刊行する年度となった。記念号ではない今号は、頁数が減少することを予想していたが、40周年記念号とほぼ同じ分量となった。今後も質・量ともに豊かな紀要を発行していくことを目指したい。

さて、今年度は考古学研究室にとって大きな画期となった。2016年4月から新たに「特別プログラム：考古学」がスタートしたのである。この特別プログラムは人文学類に創出された三つのプログラムの一つであり、人文学類の改革の目玉の一つとなっている。それに伴い、人文学類発足時から存続していた考古学専門分野に新2年生の配属が中止された。2016年度入学生からは、「考古学プログラム生」という名称になる。しかし、考古学研究室所属という枠組みは変更されない。

今後も引き続くことが予想される金沢大学の変革に対して、いかに考古学研究室を存続させ、その中で教育・研究の一層の向上を図っていくことが喫緊の課題である。

本書、『金沢大学考古学紀要』は、金沢大学付属図書館学術情報リポジトリ KURA で、冊子体版と同じ内容、レイアウトの PDF (カラー版) を一般公開している (<http://dspace.lib.kanazawa-u.ac.jp/dspace/>)。また、考古学研究室では Web 版の小雑誌『金大考古』も刊行している。こちらは研究室主催の考古学大会で発表された論考などを中心に編集しているが、ある程度は頁数に制限なく掲載できることが特徴である。これも KURA および研究室のホームページで無料一般公開している。ご覧いただければ幸いである。